ゴードン＆マクファイル、売上増も利益は21.83％減

売上高が2,900万ポンドに増加する一方、低価格帯ウイスキーの販売比率上昇でエルギンの家族経営企業の利益率が低下

2026年11月20日（金）



ゴードン＆マクファイルは直近の会計年度に売上高を伸ばしたものの、低価格帯商品の販売比率が高まったことで利益が大幅に減少した。

スコットランドの経済ニュースメディアDaily Businessは11月20日（金）、ゴードン＆マクファイルの商号で事業を営むSpeymalt Whisky Distributors Ltdが、2026年2月28日までの年度に税引前利益530万ポンドを計上したと報じた。前年の678万ポンドから減少し、約21.83％の減益となった。

売上高は前年度の2,820万ポンドから2,900万ポンドに増加し、伸び率は約2.84％だった。

この数字は、スコットランド北東部のエルギンに本拠を置く家族経営のスコッチウイスキー企業で、売上の伸びと収益性に隔たりが生じたことを示している。ゴードン＆マクファイルは酒類の製造、瓶詰め、販売を手がけ、事業の中心はウイスキーだ。同社が1月に発表した企業情報によると、従業員は約160人で、蒸溜所を2カ所運営している。

Daily Businessによると、同社は世界の酒類市場で圧力が続く中での業績だったと説明した。ポートフォリオ全体での新商品投入が成長を支えたとし、グレンリベット蒸溜所の85年熟成品「Generations」もその一つに挙げた。

同社はまた、数量ベースでの伸びが最も大きかったのは、より手頃な価格帯の商品だったと説明した。販売構成の変化により、売上総利益率は前年に比べてわずかに低下した。公表された報告書には、カテゴリー別の詳細な内訳や販売数量、為替の影響は示されておらず、利益減少のうち販売構成の変化に起因する額も明らかにされていない。

同社の最高経営責任者（CEO）、マーク・ギアリー氏は、業界全体を取り巻く圧力が強まる中でも、今回の業績はゴードン＆マクファイルの財務基盤の強さと、慎重な財務運営への注力を示していると述べた。また、2カ所の蒸溜所で生産水準を維持したとも語った。

ギアリー氏によると、同社は年間を通じて、自ら「世界最古」と称する85年熟成のグレンリベットを125本すべて販売した。また、エルギンのサウス・ストリートにある創業の地を改修し、長期的な将来に向けた投資も行ったという。

今回の業績は、スコッチウイスキー市場全体の動向を示すものではなく、1社の業績の一端を示すものだ。Daily Businessが伝えたゴードン＆マクファイルの決算からは、売上高を押し上げるだけの需要は維持された一方、利益には売上全体の伸び以上に、販売した商品の構成が影響したことがうかがえる。

同じ報道は、スコットランドの酒類業界の他社では業績がまちまちだったことも伝えた。アイラ島に拠点を置き、フランスの酒類大手レミーコアントローが所有するブルックラディ蒸溜所は、3月31日までの年度に税引前利益195万ポンドを計上した。前年の780,686ポンドから増加した。売上高も6.4%増え、2,790万ポンドから2,970万ポンドとなった。

ブルックラディは、経済情勢やサプライチェーンの問題が事業を取り巻くリスクの一部だと述べた。Daily Businessが伝えたコメントで、取締役のダグラス・テイラー氏は、レミーコアントローの支援により、主要市場での販売と流通を拡大しながら、原酒在庫への投資を続けられると語った。